

武庫川 洪水処理施設に関する環境の概略検討について

目 次

1. 河川整備計画における洪水処理施設について	1
1.1 検討対象施設	1
1.2 施設整備における環境配慮の考え方	1
1.3 検討対象施設の位置	2
2. 検討対象施設の環境の概要	3
3. 各検討対象施設の環境の概略評価（希少動植物保護の観点から省略）	

本資料について

- 1) 現在までに手元に有る限られたデータに基づき、現時点での計画で洪水処理施設の整備を行った場合の、現存する環境に対する影響を整理したものである。したがって、地区毎や個別の、いわゆる保全対策（保全、回避、低減、代償、等）については、実際の施工段階で（十分）調査を行い、必要に応じて学識者の指導助言をいただきつつ、改修整備の具体（工事範囲、工法、時期、等）を検討するものと考えている。
- 2) 本資料は、「生物の生息・生育の場」という視点で整理しており、景観・利用・水質といった他の項目については触れていない。
- 3) 洪水調節施設の動植物の状況については現時点でデータがほとんど無く、現地の状況を確認する調査が必要であると考えている。
- 4) 以上のように、洪水処理施設検討においては、現存する環境の状況を調査し、その環境を形成している要因（水位変動・流速・冠水頻度・水質、等々）を考慮して行う必要があると考えており、当該区間（地区）の動植物の保全のあり方については、今後検討を行い、適切に対応するものとする。

1. 河川整備計画における洪水処理施設について

1.1 検討対象施設

河川整備計画において計画されている洪水処理施設（河道以外）は、次のとおりである。

表 - 1 整備計画において計画されている洪水処理施設

施設名		洪水処理方法	備 考
利水ダム	千苅ダム	検討中	
	丸山ダム	事前放流による3mの水位低下	
ため池 ^{注)} (108箇所)	弁天池	貯水位を1m下げる	宝塚市生態系レッドデータブックのBランク
	畦倉池	貯水位を1m下げる	三田市生態系レッドデータブックのAランク
遊水地	上流浄化センター 増設予定地	武庫川からの横越流	

注) ため池 108 箇所から、宝塚市および三田市のレッドデータブック記載のランクの高い上記 2 池を対象とした（第 34 回総合治水 WT 資料 3-4）。

1.2 施設整備における環境配慮の考え方

施設整備における環境配慮の考え方を、次のとおりとする。

施設整備の実施に際しては、当該施設付近の自然環境状況を十分把握し、必要に応じて学識者等の指導・助言を受けて工法・工事実施時期・実施方法等について十分検討するとともに、事後のモニタリング・管理を徹底する。

1.3 検討対象施設の位置

検討対象施設の概略位置は、次図のとおりである。

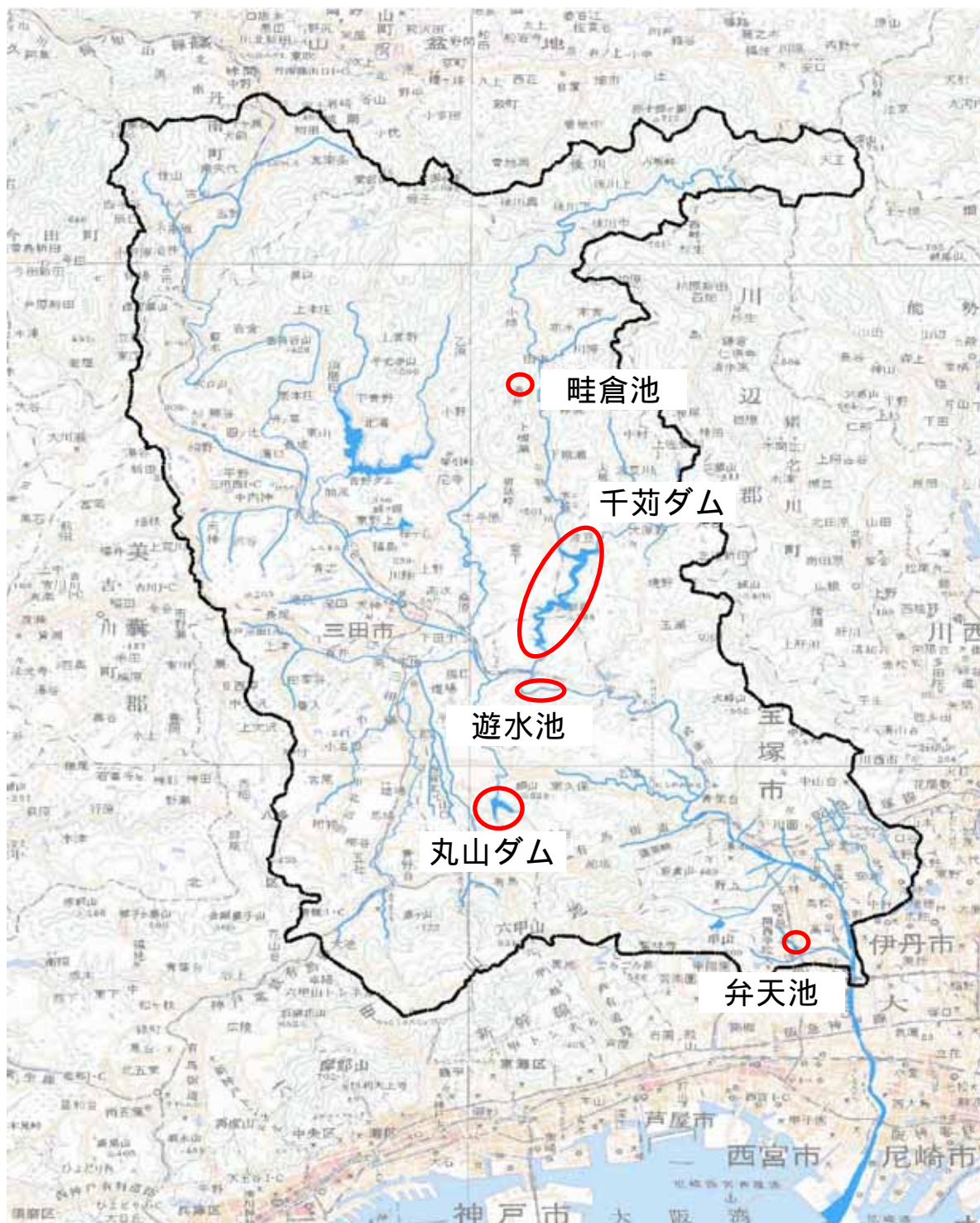


図 - 1 計画洪水処理施設 位置図

2. 検討対象施設の環境の概要

検討対象施設について、現地概略調査を行い、既存の環境調査資料等の結果も合わせて環境に関する概略検討を行った結果を以下に示す。

表 - 2 検討対象施設の環境の概要

施設名	環境影響の概略評価
千苅ダム	<ul style="list-style-type: none"> ・貯水池運用の変更（常時満水位の低下）に伴い水際線標高が下がることが考えられる。ただし、水際付近の貯水池法面は傾斜が急で、アカマツやコナラなどの山地性の樹木はみられるものの、水際特有の種はほとんどみられず、影響はほとんどないと思われる。 ・水際部は、水位低下・変動によって裸地が現れ、また植生が侵入する可能性がある。 ・動物についても水際付近の貯水池法面は傾斜が急で、利用はほとんどなく、影響は小さいと考えられる。 ・水位低下による地下水位等の変動の可能性、周辺の森林や水田雑草群落等への影響の可能性もある。
丸山ダム	<ul style="list-style-type: none"> ・貯水池運用の変更（常時満水位の低下）に伴い水際線標高が下がることが考えられる。ただし、水際付近の貯水池法面は傾斜が急で、アカマツなどの樹木はみられるものの、水際特有の種はほとんどみられず、影響はほとんどないと考えられる。 ・一部浅瀬には抽水植物などが生育するため、浅瀬の場所を保全するとともに、水位低下に合わせて、浅瀬となる部分を確保する必要がある。 ・水際部は、水位低下・変動によって裸地が現れ、また植生が侵入する可能性がある。
弁天池	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシなどの抽水植物は、水位低下による影響の可能性はある。 ・水質の変化が生じる可能性があり、コイ等の魚類やクサガメに影響を与える可能性が考えられる。また水生生物を餌とするカワウやカワセミ等にも影響を与える可能性がある。
畦倉池	<ul style="list-style-type: none"> ・池内にはジュンサイなどの水生植物が生育し、トンボ類の幼虫も生息している可能性が高く、掘削等の工事は一時的ではあるが影響が大きいと考えられる。 ・水位低下は、水際部位置の変化を招き、イノシシ等の哺乳類の利用、トノサマガエルの両生類の生息に影響を与える可能性がある。 ・トンボ類の生息を考えると、水際の植物は重要である。水位低下による水際の植物の生育についても配慮する必要があると考えられる。
遊水地	<ul style="list-style-type: none"> ・当地の草地及び樹林環境は、イタチなどの哺乳類や鳥類の採餌場所や生息場所に利用されていると考えられるが、周辺には山地が広がり、同様の草地環境も存在するため、影響は少ないと考えられる。

【参考文献】

- ・環境庁自然環境保全基礎調査（第1回～第4回）
- ・平成15年度武庫川ひょうごの川自然環境調査 報告書（平成16年3月）

3. 各検討対象施設の環境の概略評価

- 1) 千苅ダム
- 2) 丸山ダム
- 3) 弁天池
- 4) 畦倉池
- 5) 浄化センター遊水池

各洪水処理施設の環境の現状と環境影響の概略評価の資料に関しては、
希少動植物保護の観点から、記載は省略する。